

募金型自販機を設置

太陽化学の工場2カ所に計6台

ロータリークラブライオンズクラブ 青年会議所

四日市JCC

四日市青年会議所(JCC)は、同JCCが管理する「サルビア基金」に寄付することができる「青少年育成基金 応援自動販売機」を、食品メーカーの太陽化学(本社四日市市)に設置した。

この募金型自販機は2022年から、四日市市や周辺地域の企業を中心に設置。稼働台数は60台以上と拡大している。

新たに太陽化学の本社(南部工場)と塩浜工場(四日市市)の2カ所に、ダイドードリンコ(本社大阪市)とアサヒ飲料(本社

東京都)の募金型自販機を計6台設置した。6月から稼働している。自販機の売り上げの一定割合または一定金額がサルビア基金に寄付される。

四日市JCCの野呂京志前理事長が太陽化学の山崎長俊執行役員と同級生という縁で、募金型自販機を設置を提案。太陽化学はSDGs(持続可能な開発目標)活動などサステナブル経営に力を入れており、四日市

青少年育成の「サルビア基金」に寄付



太陽化学の山崎執行役員(左)と四日市JCCの西田真之委員長

NEWS&TOPICS

- ROTARY CLUB
- LIONS CLUB
- JUNIOR CHAMBER
- KIWANIS CLUB

【毎週水・金曜日に掲載】

JCCの活動に賛同した。

山崎執行役員は「(募金型自販機を通じ)社員一人一人が社会貢献に参加できる仕組みが素晴らしい」と評価。四日市JCC・地域活性化委員会の西田真之委員長は「四日市の未来を担う子どもたちを、この活動を通じて見守っていきたい」と話した。

(四日市)

羽田衝突事故半年

「変わるチャ

過去の

羽田空港で日航と海上保安庁機が衝突した事故から半年がた。国土交通省は6月下旬に、再発防止策を急ぎ進める。航空は2008年に国土交通省がまとめた類似点を挙げ「今回の事故は変わるチャンスはあった」と述べてきた国の対応を嘆く。

国土交通省は有識者を交えた対策検討委員会の中で計8回、まとめとして、管制官を増員して今夏に離着陸調整担当を置くことや、滑走路進入を管制官の卓上画面で注意喚起するシステムに音声が鳴るようにすること、誤進入を航空機に警告する灯火「滑走路状態表示灯(RWSL)」の増設などを打ち出した。滑走路誤進入を巡っては、国土交通労働者は「中間まど」対策の延長線上で話す。内容は一

